

第5回 新潟市新バスシステム事業評価委員会(第2部) 議事要旨

■日時：平成29年12月15日(金) 13:30~15:30

■場所：新潟市役所 本館3階 対策室2・3

■出席者(敬称略)

委員

谷口 守(委員長/筑波大学 教授)

大串 葉子(新潟大学 経済学部 准教授)

鈴木 文彦(交通ジャーナリスト)

近野 茂(公認会計士)

早福 弘(新潟商工会議所 専務理事)

岩脇 正之(新潟市区自治協議会会長会議 座長)

菊野 麻子(NPO 法人ワーキングウイメンズアソシエーション 副理事長)

横尾 文子(NPO 法人まちづくり学校 理事)

オブザーバー

高橋 智彦(国土交通省北陸信越運輸局交通政策部 課長:代理出席)

渡邊 博幸(国土交通省北陸地方整備局新潟国道事務所計画課 課長)

真島 豊(新潟県警察本部交通部交通規制課 課長)

■議事概要

(1) 評価方法に関する主な意見

- 今回の評価に使用する指標や評価の方法など、平成28年度に実施した開業1年目の評価からの変更内容については了解。次年度に実施する評価においても、評価に用いる指標の追加や変更は可能ということで行っていけばいい。
- 前回評価は市民が理解するのに難しい資料の内容であった。今回の資料は前回よりわかりやすくなっている。

(2) 評価結果に関する主な意見

- 郊外線を増便し、利用者の増加につなげていく本事業の方向性を見失わないようにするべき。
- 事業開始当初の目的や方向性を大きく変えずに進めていき、協定の第1期として総括することで、2期目の方向性がはっきりする。
- ダイレクト便について運行の要望があったとしても「持続可能な移動交通を維持するために、ダイレクト便を増やさない」ということであれば、その点を評価委員会で評価をすることも大事。できない理由を市はしっかり説明するべきと考える。
- 乗り換えのある路線では課題もあることから、実態をみて改善を検討していくこと。

(3) 今後の委員会の進め方に関する主な意見

- 次年度実施する中間評価についても、あくまでも最終評価に向けた位置づけでいいのではないか。

- 定性的な評価については、全体の中での割合がどのくらいあるかというように表現を工夫して、客観性を持たせていくべき。
- 乗換えに関する情報案内など、これまでの取り組みによって良くなったものもあるので、最終評価の際にこれらを評価する指標を追加してもよい。

(4) その他

- 全国的にバスの運転手不足が深刻化しており、路線バスの減便など運行にも影響が出ている。だからこそ、さらに効率的な運行の仕方を考えるべき。また、これからは運転手を増やすことは地域の全体問題であることを市民に発信していくことも必要ではないか。
- マップやホームページのわかりやすさなども市民目線ではもっと改善できる。市民と交通事業者が一緒になって検討できないか。